

## 令和3年度 第3回国産材の安定供給体制の構築に向けた 近畿中国地区需給情報連絡協議会

日時 : 令和3年12月13日(月) 14:00~16:00

場所 : ウェブ会議

### § 会長挨拶 (西垣 泰幸)

本日は師走も半ばと言う何かと押し詰まった中、令和3年度第3回国産材の安定供給体制の構築に向けた近畿中国地区需給情報連絡協議会をウェブ会議にて開催いたしましたところ、国、12府県庁をはじめ川上、川中、川下の業界を代表される方々43名のご出席をいただき誠にありがとうございました。また、座長を務めていただいております京都大学の松下先生には本日も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、前回開催いたしました9月28日から早2か月半が経過いたしました。この間、輸入材の環境が大きく変化したわけではございませんが、それでも各地域における樹種やアイテムによっては需給の状況に変化が見られるところがあります。そうした変化を今後どのように見ていくべきなのか、そしてどのようにして対処していくべきなのか、ある意味では非常に重要な会議となりますので、会員各位のそれぞれのお立場の中から忌憚のないご発言を頂戴し、松下先生にうまくまとめていただけるようお願いをいたしまして、開会に際しましてのご挨拶とさせていただきます。

本日は、何卒よろしくお願い申し上げます。

### § 議事 (座長 松下京都大学准教授)

今日で今年3回目の協議会となります。

議題は大きく二つありまして、需給動向についてと令和3年度の補正予算についてです。

需給動向については、木材価格は上がったままで輸入材をめぐる状況に大きな変化はありませんが、前回から2か月半ほどたったわけで、林野庁から最近の動向の説明をいただきたい。

(林野庁木材産業課 永島課長補佐)

木材の輸入状況について(資料1)、木材需給動向について(近畿中国地区)(資料2)、12月需給情報連絡協議会アンケート(資料3)により説明。

(松下 座長)

この間の全国的な動向の説明でした。アメリカの製材価格が、最初に一気に上がって、一気に下がった後少しずつ上昇している。10月までの統計を見ると、昨年と比べると回復してきているようだ。

一方で国内については、全体的に高止まりしているという説明でした。それでは、これ

からお話を聞いていきたい。皆さんから近畿中国地区の現状と見通しについてお願いします。

川下、川中、川上の順番にお話を伺い、質疑をしたい。川下の建築業界については、前回以降の変化、具体的にはどのようなものが入手し易いとか難しいとか、合板は今どうなっているのか、新規受注の動向、価格転嫁の状況、輸入材から国産材への代替があるのかなどについて情報提供をお願いします。

(木住協：五所)

9月以降、価格は上昇気味から横ばい。一部工務店における国産材への切り替えについては、メーカーでは仕様変更につながるので、やや時間がかかるもよう。受注状況は横ばいだが、補助金の関係で国土交通省のグリーン住宅ポイント制度の申請受付が終了。国土交通省令和3年度補正予算の「こどもみらい住宅支援事業」は事業者確定まで待ちの状況で12月の受注は厳しい。ローン控除が0.7%に低下した影響がどのように出てくるか注視している。

ベトナムのロックダウンの影響で半導体不足により給湯器が不足しており、住宅の引き渡しができない状況が発生している。

(全建総連：谷内)

以前と比較して、材料が入手できないということはなくなってきているようだ。また、現場が止まってしまうということも最近ではないそうです。価格的には、高いまま推移しているようだ。

工事費については、見積もりを作成し、あらためてお客様と相談して値段を決めている。資金繰りが厳しいので、融資の相談会を開催している。

ウッドショック以外だが、木材以外にキッチン、トイレなどの住宅設備機器の納期が遅れている。こちらの影響の方が大きいようだ。

また、サッシであったりガラスであったり全てが値上がりしているため、住宅建築コストは上昇している。

(ナカザワ建販(株)：東)

合板以外の部材は、以前のような全く無い状態は脱している。合板はその日暮らしの状態。

各プレカット工場の新規受注の動向は、年明け以降落ちてくるのではないかと。合板の需給動向が見えないので、積極的な受注活動ができない状態である。

ほかの材料に関しては、表向き大丈夫なような感じだが、不足感は若干残っており、特にレッドウッドの梁、ホワイトウッドの柱に関しては不足のまま推移している。ただ、代替品のスギの集成柱が出てきており、このひと月は代替として活用している。

材の仕入れ価格は、いったんは高止まりの状態、1月以降に船積みする分に関しては若干下がってきている。入港するのは5・6月ごろなので、来年の夏半ばぐらいになれば価格は落ち着くのではないかと考えている。

(JBN全国工務店協会：安成)

中小工務店の立場からすると、ウッドショックの影響や様々な住宅設備機器の欠品等を含めて工期がかなり延伸して、受注状況に影響していると思う。小さい工務店ほどうまく受注が取れていない、もしくは、期内完成案件があがらずに収支が悪化するところもある。

物の入りはいくらか良くなっているが、価格が高止まりしているので影響は非常にある。

我が社のように林産素材系の自然素材を使用している会社は影響がないが、業界全般としては、これを機に相当環境が変わると思っている。一番期待をしているのは、脱炭素の流れがどのような好影響をもたらすか注目している。

(松下 座長)

追加でお話いただけることとか、林野庁からの質問などありましたらお願いします。

(林野庁 永島課長補佐)

ナカザワ建販さまにお伺いします。国産材への転換を期待していますが、スギの集成柱が使われているようですが、一過性のものなのでしょうか。

(ナカザワ建販(株)：東)

スギの集成柱に関しては、10月11月に柱の入庫が圧倒的に少なく、なおかつ契約量が70%、80%くらいの状態でした。なので、元からホワイトウッドをため込んでいく性質はあったが、やはり現物が足りない状況なので、いったん代替としてスギの集成柱を活用したところでした。なので、一過性の傾向はあるが、ホワイトウッドの集成材の値段がかなり上がってきていて、安い材料をお客様が探しているところから考えると、スギの集成柱に少しずつ変わっていつている現状と思う。

ただ、材木の価格以上に住宅設備関係とか枠材なども不足していて、どちらかと言うとウッドショックよりもそちらの方に全体として意識がいつているようなので、以前よりは材木の不足感は業界全体では薄くなってきていると思う。

(松下 座長)

続いて、川中のほうに行きます。

川中では、今の生産状況、原木の確保状況、前回以降の変化及び安定供給体制の構築についてお話をお願いします。

(院庄林業(株) 豆原)

今日は、製材事業部の責任者の森本の方から報告させていただきます。

(以下、森本)

ウッドショックの発生後、輸入材の入港が遅れた関係で、弊社では今はヒノキをほぼ100%生産・製材しており、対前年103%位の生産量となっています。月平均7,300m<sup>3</sup>のヒノキ丸太生産です。製品販売の方は、平均3,700m<sup>3</sup>の状況です。今年の4月から7月という時期は、製材すれば何でも出るという状況が続いたが、ここ1か月は若干落ち着

きをとりもどしています。通常の JAS 製品の受注は旺盛だが、規格外の製品の動きは止まってきています。販売先は、地域の工務店よりは全国の分譲系のビルダーから、特に土台の引き合いが非常に多い状況です。

安定供給については、弊社は 6 年くらい前から立木の購入に力を入れており、今年で約 1 万 7 千 m<sup>3</sup> の伐採をしています。来年についても、立木を購入して伐採に力を入れていく考えです。

市場からの仕入れについては、ヒノキ産地からはしっかり購入したい。最近のヒノキ原木の価格は、高値だったものが先々週は下がってきたが先週はまた上がるという状況です。背景としては、輸入材が来年春先以降も高値の目途なので、国産材についてはしっかり材料を確保して供給する姿勢で仕入れを強化している状況です。

(中国木材(株) 荻原)

生産状況は、住宅着工が好調なのでフル生産の状況です。9 月と 11 月の対比で生産は 1 割前後増えているし、前年比 3 割弱増加しており、極めて順調な生産状況です。

出材状況も好調です。これは、中国や九州地区において、単価は下がるものの出材は好調という状況です。

今後の国内価格の見込みについては、以下の理由で高値安定が続くと思われま

- ① 住宅着工が好調であること、
- ② 物流の目詰まり（コンテナ輸送）により外材が順調に入っていないこと、
- ③ 欧州材は来年も高値が続くこと、

以上から国産材も安定的な高値が見込まれると考えています。

今後の方向として、当社は山林の購入に力を入れていますが、山林の価格が上がってきていまして、当社にも購入依頼が増えています。

また、大径材の購入希望が多いので、九州の伊万里に新しく大径材工場を作ることとし、大径材の供給に努力したいと考えています。

(日新林業(株) 宍道)

現在の状況は、9~11 月は原材料不足による減産はありません。

原木の確保状況は、9~11 月は予定数量の確保できている状況です。冬に向けては原木生産量が若干下がってきそうなので、集材を強化することとしています。

今後の安定供給への取組ですが、径級によらず使えるものを使うという考えで、工場と協力しながら集材を進めています。

(京都府木連 愛甲)

京都府のプレカットの状況は、10 月から 12 月はフル稼働しています。

素材の出荷状況は、例年どおりの出荷量だが、単価は高止まりです。特に、合板の材料が少ないということで、合板の価格をベースに価格決定される状況です。

製材品は、価格が高止まりしているが、ホワイトウッドやレッドウッドの製品に品不足感があります。

価格については、これからももう少し上がるという見込みをたてているところが多いようです。

住宅の需給状況は、京都府内では例年以上に順調に推移しています。ただ、合板や他の資材の不足により、これらが入手困難な状況があります。住宅価格については約10%～15%程度値上がりしているのではないかという感じがあります。

(広島県木連 川村)

今年前半の木材不足は、ほぼ解消されています。丸太相場も一時期大幅に上昇していましたが、値下がりが続いています。木材は、国産材も含め調達できる状況です。

原木市場は、引き続き出材の増加が見込まれています。製材工場は、増産が続いています。

梱包材は、高値のラジアータ松に対しスギの受注比率を高めるためにスギ原木の確保に苦勞している企業もあります。

プレカットは、製品不足はほぼ改善され、堅調な稼働が続いています。今後の受注減への懸念、あるいは合板不足、職人不足、さらには先物価格の不透明感を危惧する声もあります。

住宅建築は、国産材やLVLへの代替が進んでいますが、今後の着工減への影響のほか、在来工法から2×4工法への移行が見られます。

このほか、合板不足、製品不足の解消の中で、国産材製品の高値から、一部部材に外材の利用も見られます。

引き続き関係者との情報共有やウッドショックを契機とした今後の需給安定化に向けて、遠藤先生を講師に招きオンラインでの講演会や県等との意見交換に努めています。

今後の見通しについては、素材生産や原木市場は原木価格のピークは越えたものの依然として高値で推移しておりますので、現状程度の生産、取扱量を見込む企業が多い。その一方で、需要の減少、価格の下落を懸念する企業もあります。

製材工場も、引き続き好調を示す工場がある一方で、アメリカ、中国の住宅事情や合板不足など、この先の需給が不透明で業況悪化を心配する企業もあります。全体的には、年内あるいはしばらくは大きな変化はないという見通しです。

(林ベニヤ産業(株) 志岐)

現在の生産状況は、9月と変わらずフル生産を続けていますが、注文をさばききれない状況が続いています。南洋材からの代替、フロア材の国産化等も影響していると思います。

今後、生産を上げたいのですが、気温が低下してきており乾燥等の生産性が上がりにくい状況です。

原木の確保状況は、現状では比較的安定しています。これから冬場、内航船の輸送が天候の具合で遅れることが予想されるので、今後も材料の仕入れに力を入れていきます。

北米材に関しては、カナダの洪水がニュースになっていますが、伐採にも影響が出て

いるようです。

中国への輸出は、少しスローダウンして、輸出シッパーからのオファーもきています。

今後の取組としては、今回のウッドショックでも見られましたが、地域によって価格差が出てきます。これを踏まえて北海道から九州まで情報収集し、材料の集荷に努めたい。海外についても渡航制限が緩やかになり次第、頻繁に訪問したい。

樹種については、既成観念にとらわれず、スギ・ヒノキ・カラマツ以外の新しい樹種にも挑戦したい。機械の性能が向上するにつれて、以前は使えなかった樹種でも使えるような局面があると思うのでトライしていきたい。

大径木への対応も、最大径を 55~60cm で制限していたが、70,80cm と実際にラインに乗せてみて、不具合を確認するなどを行っています。このように、今まで使っていなかった材料にもチャレンジしていきたい。

(松下 座長)

ありがとうございました。以上の川中からの報告者に質問等がありましたらお願いします。

山林の購入を進めているというお話が複数のところからありましたが、最近の新しい動きはあるのでしょうか。

(中国木材(株) 荻原)

ウッドショックにより立木価格も上がってきました。今まで、林地を含めて買う場合、40 万円/ha 程度の相場だったが、最近ヒノキが入ると 200~300 万円/ha という強気の所が多くなってきています。何時までも高値が続くわけでもないので低めに査定していますが、山主の方も相当強気になってきています。

(松下 座長)

山主さんの方から、200 万 300 万という値段を言ってくるのですか。

(中国木材(株) 荻原)

こういうマーケットなので、銀行経由の話はなかなか無い。例えば、地銀でも山主に融資があるということは無いので、個人の間で眠っているような話が多い。

私どもがやる場合には、森林組合出身の人とか地元の人から情報をとって、その人をきっかけとして県の支援等をもって徐々に情報をたぐって、山を買っています。例えばトライアルとして、スギが中心でも 100 万とか 150 万とかで買くと、その隣の人から声がかかるという実態なので、そういう眠っていた案件が動き出してくるような流れがよく見えます。

(松下 座長)

値段が上がって、売ってもいいという人が増えたということですね。

(全市連 柱本)

外材から国産材への代替がどれくらい進んでいるのか、どういう見通しかについて、製材あるいは工務店の方から技術的なものも含め情報をいただければありがたいのですが。

(中国木材㈱ 荻原)

技術的な面からは、強度の面からスギだけでは欧州材やベイマツに変えられないので、技術面とか構造、強度の見直しで弱い木でも建てられる工法を考える必要があります。仮に、それが進んだとしても、価格によるところが大きい。当社ですると、昔はレッドウッドが5万円とするとベイマツだと5千円低い、スギだと8千円低いとか、ある程度の価格差が出なかったら売れなかったのですが、最近は欧州集成材が15万円とか相当高値になっていますので、ベイマツや国産材で代替できる余地があると思っています。

当社は、秋田の能代に工場を建てる決断をしまして、来年から投資をしていきますが、それもある程度スギの管柱が今の価格であればホワイトウッドに代替できると考えているからです。

(院庄林業㈱ 豆原)

弊社は欧州アカマツを月産で約1万7千m<sup>3</sup>仕入れて、並行して製材しているという企業でして、実際、外材のところを国産材に切替えられるかということについて、弊社の目線で見ると、外材のメリットは乾燥された板が契約すれば大量に入ってくるということです。我が国は全国的に見ても乾燥機が十分ではなく、乾燥された国産材の板を大量に購入することができないので、どうしても欧州材に頼らざるをえないという状況です。

部位的には、土台を作っていますが、めりこみ強度の強いヒノキについてはもう少し市場がふえてくると考えています。

(松下 座長)

続いては、川上からこの秋の生産状況、生産見込み、あるいは懸念していることなどについてお話をお願いします。

(㈱八木木材 八木)

素材生産業者としては、ウッドショックで大きな利益を得ました。

ただし、いつもの年と違うところがある。例年なら、11月になれば徐々に原木市場に木は出てこなくなります。ところが、原木市場の土場の現状は、市にかけたかったができずに山積みになっている市場が多い。素材生産業者は、ウッドショックの中で一所懸命出材をしてきた、それに合わせて仕入れもした。その仕入れた材の価格がこのまま下がるのであれば、下がりきる前に出してやろうということでしょう。

安定的に使っていただけるのが、木質バイオ発電です。先日も国有林の立木を購入したが、いよいよとなったら発電原料にすれば収支はあうという値段で購入できている。木材製品への利用については、余り大きな期待をしていないのが素材生産業者の考えです。

前回、安成工務店の社長が言われたように、私どもは山から全部つながっています。

材木が製品利用されないからといって、右往左往していません。収支に影響がないとは言わないが、大きな影響はありません。今出てきた大きな問題は、SDGsです。当然我々もその中で生産をしていかなければなりません。我々は木質バイオマス発電の方に大きく出荷しているので、うってつけの時代の流れの中にいると思う。

お付き合いのある社長の話では、日本の中で大きく塩を作っている会社が4社あるそうです。2社は木質バイオマス発電に取り組みました。他の2社は化石燃料で塩を作っています。電気を選択する時代が来ています。

われわれは、木材を木質バイオマス発電のような用途に使っていただくのいいのか、外材の代替として建築用材として使っていただくのいいのか、大きな岐路に立たされているのが現状です。

(大林産業(株) 大林)

今年、6万 m<sup>3</sup>/年の素材生産を行っている。昨年と比較して、下請けが増えた分増加しています。

立木価格がかなり上がっているという話がありましたが、私どもでは特に立木価格を上げていません。一時期、ヒノキ3万5千円、スギで2万円を超えるような単価もつきましたが、現在ではヒノキで2万5千円まで落ち着いてきています。山林所有者からは高く購入してもらえるのではと言う話はあるのですが、一時的なものだということを十分説明させていただいて、多少色を付ける程度で購入している状況です。

山林所有者まで、今回のウッドショックの恩恵がなかなか行渡っていないと思います。そういうこともあり、再造林を希望しないという方がほとんどです。処分をしたいので土地ごと買って下さいという方が非常に多くて、日本の森林の先を考えると、もう少し立木価格とか山林価格が上がっていくような仕組みを作っていくと、我々の仕事の先行きもどうなるのかなという気がしています。

(松下 座長)

八木さんと大林さんには、素材生産業の立場でご発言をいただきましたが、川中の立場で何かございましたらお願いします。

(株八木木材 八木)

木材センターで製材事業者としてウッドショックを経験しました。

外材の代替として使っていただくには、非常にボリュームのない見せ掛けだけの国産材だなということを実感しました。

常にセンターの商品を使っていたいただいている方でも選別をして、一部の方に製品を届けられなかったというのがこの半年のことです。常時使っていたいただいている方にも、これだけしか送れませんとか、供給できませんということでやってきました。

この中で、国産材を継続的に使ってくださる方々への供給責任を感じました。そこで、乾燥機を12月に1基増設し、原木投入量で1万2千 m<sup>3</sup>/年ほど処理量が増加します。年度明けにはもう1基増設し、あわせて2万4、5千 m<sup>3</sup>/年ほどの処理量にしていこうと考えています。

これは、今回のウッドショックの中で、取引先に引き続き国産材を使ってもらえるのかというアンケートを取り、国産材への依存度をある程度引き上げるから安定的に取引したいというお答えをいただいた方に対応するために乾燥機を増設したものです。



素材生産者の立場からすると、需給情報連絡協議会では国産材を使ってくれる人たちを結び付けることが改めて必要な協議議題だと思います。

(大林産業(株) 大林)

少し前までは、こちらの言い値が通っていた時期がありましたが、今は購入者に伺ってから単価を決めており、強気からかなり弱気になってきています。

(松下 座長)

それでは続いて、民有林関係者からお願いします。

(山口県森連 森田)

生産量は、前年比だと上半期での増加量と同量を10~12月の3ヶ月で増産しています。天候に恵まれており、出材は順調です。

八木さんからもありましたように、当会の市場でも出材が多く選別が追い付かない為、土場が満杯状態になっています。

今後の生産見込みは、森林組合については施業地の進捗状況は順調なため2月くらいには落ち着いてくるものと思われまます。素材生産業者については、価格の先行きが見えないことから年内に出荷しようという意向が強く、土日関係なく出材が続いています。

今後の懸念としては、ウッドショックの恩恵で著しく上昇した木材価格の適正な価格ほどのあたりなのかを見極めながら取り扱っていかねばならないと考えています。

(森林整備センター中国四国整備局 山崎)

整備センターでは、原木市場への委託販売を中心に出材しています。1年前ならば材価が下がっていたので森林所有者からの要望により施業を見合わせた箇所もありましたが、今年度は順調に出材しております。

今年度からは育成複層林を推進しており、小面積群状伐採し更新する施業を拡大しています。

(近畿中国森林管理局 長屋)

春に素材生産と立木販売の予定を公表しましたが、その実績を報告します。

◎素材生産 12万 m<sup>3</sup> 予定 → 8万5千 m<sup>3</sup> 見込み (71%)

ウッドショックにより素材生産業者が民有林の仕事が増えたため、国有林に手が回らなかったことが一因。

◎立木販売 58万9千 m<sup>3</sup> 予定 → 8万4千 m<sup>3</sup> 見込み

ヒノキ中心の山は比較的売れているが、全体として搬出条件の悪いところが多く、林道の状況や国有林に至るまでの公道の制約が大きいことが実績が低位な原因と思われる。

令和3年度近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会で素材生産の早期発注と立木販売の前倒しを行い、市場に少しでも早く材木を供給することとしていましたが今後も供給調整について検討していくこととしております。

(西垣林業(株) 丸谷)

秋に入り、原木の供給量はかなり増加しています。価格も安定した状態になってきています。夏場以降、川上に対し原木供給の増量要求を川中、川下が発信したことが大きかったと考えています。

しかし、地域や業種によっては樹種や品目において若干の差が出てきているのが少し心配な所です。間違った発信を山側にしてしまうことで、今後の冬場の供給体制にほころびが出る可能性があるかと懸念しています。

特に国産材は、素材生産と物流がネックとなっていますので、ここが構築できないと供給が安定してきません。そのためには、川中、川下からの川上に対する発信が非常に大切で、国産材の使用について、いつ、どれ位の数量が必要であるかということを経営的に前広に発信することによって国産材を流通からはずさない努力が必要です。外材ばかりではなく国産材も必要ですよということをしっかり伝えていくことが重要だと思います。

(松下 座長)

何かご質問等ございましたらお願いします。

(林野庁 永島課長補佐)

八木さんからアンケートをとったというお話がありましたが、どういう方にどのように伺ったのかを教えてくださいませんか。

(榎八木木材 八木)

供給責任があります。今回のように供給責任を果たせなかったら国産材を使っていけない。6万円のヒノキが12万円まで跳ね上がってしまうのですから、国産材の供給能力の低さが露呈しました。

国産材を本当に使ってくれるんですか、そうすればうちは設備を増やします。そうすれば我々も安定的に供給することが可能ですよということです。今回のようにいつも納材しているところにも納材できないということは繰り返せないと考えています。

そのためには、2~3万 m<sup>3</sup>の山を常時かかえています。そういう準備があるので今回のウッドショックについても原木は乗り切ることができました。製品を作るということに関しては、2極化すると思います。値段の関係で外材に戻る方もいるし、企業にとって

値段で判断することは必要だと思います。ですから、安定した値段で出荷していくことは必要です。利用先へアンケートでこれ位の量は責任を持って使うから国産材製品を作ってほしいという要望をお聞きした上で乾燥機を増設することにしました。

(松下 座長)

価格は高止まりしているが、いろいろな変化が出てきているようです。

こうした中で、今回補正予算が成立しましたが、ウッドショックの対応も含まれていません。林野庁から説明をお願いします。

(林野庁計画課 岡村)

資料に基づき説明。

(松下 座長)

この協議会、苗木の関係者にも参加いただいております。最後に和歌山県山林種苗協同組合から苗木の状況についてお話をいただきます。

(和歌山県山林種苗協同組合 西田)

和歌山県の苗木需要量は元年度から減少傾向にあり、今年度は昨年度よりも更に減少するものと見込んでいます。

特に、今年度はコンテナ苗の需要量が極端に減少しています。コンテナ苗の近年使用量は増加傾向にありましたが、裸苗に比べ価格面・植栽地までの運搬面で植栽事業者が使用を躊躇する原因となっています。しかし、コンテナ苗は夏季を除き年間を通して植栽を行える利点があり、植栽時期が2～3月に集中することを避けることができるため、植栽事業者に対して、このような利点を更に普及しコンテナ苗の需要拡大に努めます。

(松下 座長)

需給情報連絡協議会は本年度分について、今回で終了の予定です。1月28日に中央需給情報連絡協議会が開催されます。その結果については、林野庁から皆様に情報共有します。

最後に、西垣会長に一言お願いします。

(西垣 会長)

林野庁からの説明の中の、川上、川中、川下の相互の利益を拡大することを目指すということは非常に重要なテーマだと思いますが、本来はここの中に環境問題が潜んでいるのではないかというふうに思っております。環境問題というのは、川上、川中、川下それぞれにからんでいる問題でありまして、それを含めた議論をすることによって業界として新たな価値観というようなものを創出していく作業が必要になってくると思います。

とりわけ、令和6年度から国民一人当たり千円という森林環境税を現実的にご協力いただくわけですので、エンドユーザーである国民の方々に広く国産材をご理解いただくことも、われわれ事業者の大切な仕事ではないか。まさに官民一体となって取り組むべき作業だということを感じましたので、最後に一言だけ申し上げさせていただきます。

(松下 座長)

本日は皆様お忙しいところ参加いただき、ありがとうございました。

以上で、協議会を終了いたします。